

至 自		至 自		昭 20		年 月 日	略 歴	独立混成才八〇旅団司令部略歴		
11	11	8	8	8	6				4	1
18	15	18	17	9					20	16
海拉爾出発		同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		海拉爾第一第三作業大隊に編入		海拉爾出発		<p>通称号 滿第七〇三部隊 銳鋒第二五二八五部隊</p>		
海拉爾出発		同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		海拉爾第一第三作業大隊に編入		海拉爾出発				
海拉爾出発		同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		海拉爾第一第三作業大隊に編入		海拉爾出発				
海拉爾出発		同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		海拉爾第一第三作業大隊に編入		海拉爾出発		<p>軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において臨時混成第六〇〇旅団よりの抽出人員を基幹として編成 成完結 第一一九師団主力の興安嶺転出後該師団の残留者および在海拉爾各隊を併せ、 指揮し主力を海拉爾に一部を満洲里、磋商、札来諾爾に配置し国境の警備、お よび海拉爾の防衛に任じた。</p> <p>この間海拉爾二地区陣地（河南台）において「ソ」軍と激烈な戦闘を交えた。 海拉爾二地区陣地において武装解除</p>		
海拉爾出発		同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		海拉爾第一第三作業大隊に編入		海拉爾出発		摘要		

2141

	至 自
	11 11
	18 15
	滿洲里經由入「ソ」
	司令官
	少將 野村 登 亀 江

至 自			至 自			至 自			昭 20	年	独立歩兵才五八三大隊略歴	
11	11	11	8	8	8	8	8	7	4	1		月
18	15	15	18	17	9	9	7	1	20	16		日
<p>通称号 満第五五九部隊 銃鋒第二五二八六部隊</p> <p>略 略 略</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において臨時混成第六〇一大隊よりの抽出人員を基幹として編成完結</p> <p>第一、第三中隊から興安嶺陣地構築援助のため数回にわけて派遣</p> <p>日「ソ」開戦にともない、主力を海拉爾二地区陣地（河南台）に、第四中隊の主力を哈南鮪岡陣地に配備</p> <p>主力の状況</p> <p>海拉爾二地区陣地で「ソ」軍の包囲攻撃を受け甚大な損害を蒙つた。</p> <p>二地区陣地において武装解除され、同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容</p> <p>海拉爾第一第二作業大隊に編入</p> <p>海拉爾出發</p>												
										摘 要		

自 至						自 至	
9	9	9	8	8	8	11	11
23	23	11	17	16	9	25	18
<p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>哈南館岡派遣隊の状況</p> <p>哈南、鮎岡を出発して興安嶺に向つたが途中数行動群に別れて行動し、博克図をへて齊々哈爾に到着。その後同地編成の作業大隊に分散編入され入「ソ」</p> <p>興安嶺派遣隊の状況</p> <p>日「ソ」開戦により陣地補強中停戦となり直接戦闘せず。</p> <p>博克図に集結</p> <p>博克図第二作業大隊に編入</p> <p>博克図出発</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>大尉 谷口 猛</p>							

至 自		至 自		至 自		至 自		昭 20		年 月 日	略 歴	摘 要		
11	11	11	11	11	8	8	8	8	4				1	独立歩兵才五八四大隊略歴 通称号 滿第五五八部隊 銳鋒第二五二八七部隊
25	18	18	15	15	18	17	9	9	20				16	

		自 至			
		8	8	8	8
		18	14	17	9
<p>五地区 七地区陣地の状況</p> <p>「ソ」軍の攻撃を受けて多数の戦死生死不明者をだした。 以降一部の者は陣地を脱出して博克図に向かつて後退し停戦後博克図編成の作業大隊に編入し入「ソ」</p> <p>主力は陣地において武装解除後同地兵器廠に收容後部隊主力に合流し爾後同一行動</p> <p>なお七地区陣地派遣隊は日「ソ」開戦後消息不明で玉砕したものと判断される</p> <p>隊長 少佐 竹中 武臣</p>					

2146

		昭 20		年	
		月		日	
10	10	9	8	7	4
11	9	中旬	10	27	20
満洲里經由入「ソ」		博克図出発		博克図第五第六作業大隊に編入	
		後同地において武装解除		途中「ソ」軍の追尾攻撃を受けて更に小行動群に別れ博克図、齊々拉爾に到着	
		主力の行動		師団三河警備隊の略歴参照)	
		「ソ」軍と交戦十四日概ね各中隊に別れ興安陣地に向かい撤退開始		爾後同地付近の警備	
				部隊主力は烏奴耳付近の陣地構築のため同地に移動	
				第一中隊は日「ソ」開戦前より第一一九師団三河警備隊に配属し、開戦後は警備隊長団少佐の指揮下により同部隊と行動を共にした。(その状況は第一一九師団三河警備隊の略歴参照)	
				軍令陸甲第九号により編成下令	
				興安北省海拉爾において歩兵第二五四連隊からの要員を基幹として編成完結	
				略	
				歴	
				摘要	
				独立歩兵才五八五大隊略歴	
				通称号 満第五五九部隊	
				鋭鋒第二五二八八部隊	

		自 至									
		11	11	11	8	8	8	9	9	9	
		25	15	15	18	17	9	29	21	21	
		滿洲里經由入「ソ」	海拉爾出發	海拉爾第二作業大隊に編入	陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容	を交え甚大な損害を蒙つた。	是枝少尉の指揮のもとに海拉爾二地区陣地（河南台）において「ソ」軍と激戦	海拉爾残留隊	滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發	一部齊々哈爾第七作業大隊に編入
隊長	大尉 藤 堂 駒 次 郎										

昭和		年	独立歩兵才五八六大隊略歴
昭	20	月	
日	1	日	
8	8	4	通称号 満第二八三部隊 鋭鋒第二五二八九部隊
9	9	20	
軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において臨時歩兵第六〇二大隊の人員を基幹として編成完結 部隊を左のとおり配備し国境警備に任じた。			略歴
1. 満洲里 本部第四中隊の一ヶ小隊 大隊行李の一部 2. 札来諾爾 第二中隊歩兵砲小隊 大隊行李主力 3. 磋崗 第四中隊主力 4. 海拉爾四地区 第一中隊第三中隊 機関銃中隊主力 5. 哈克禪地 機関銃中隊の一部 日「ソ」開戦後の各中隊の状況は次の通り 満洲里、札来諾爾、磋崗部隊 満洲里、札来諾爾部隊は海拉爾に向つて各々の警備地を出発			
			摘要

										自 至			
10	10	10	8	8	8	8	8	8	8	8			
下旬	17	15	9	18	12	10	19	9	10				
<p>隊 長 大尉 石 指 律</p>										<p>礮崗部隊も警備地を出発して海拉爾に向つた。</p> <p>各隊は海拉爾に向かう途中「ソ」軍の猛追撃と炎熱のため、その大半のものが戦死又は行方不明となり、ようやく海拉爾附近に到着したものも十九日海拉爾西方の「ソ」軍急設飛行場付近において「ソ」軍の攻撃を受けて、脱出したものは僅か十数名のみであつた。</p> <p>海拉爾四地区部隊の行動</p> <p>「ソ」軍の攻撃を受けたが大なる損害なし</p> <p>夜陣地を撤退して第一集結地を四地区南方梅ヶ丘陣地としたが一部直接興安嶺に向つたものもあつた。</p> <p>主力は梅ヶ丘陣地に到着、同地において再度「ソ」軍の攻撃を受け甚大な損害を受け一部同夜同地出発博克図に向つた。</p> <p>ハク派遣隊</p> <p>日「ソ」開戦直後博克図方面に後退を開始したようであるが状況不明</p> <p>以上の如く撤退行動は少人数毎に区々のため統制ある武装解除は受けていないが、博克図で武装解除されたものは次のとおり行動している。</p> <p>博克図第六作業大隊に編入</p> <p>博克図出発</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p>			

至 自				至 自				昭 20		年 月 日	略 歴	独立歩兵才五八七大隊略歴 通称号 満第七〇〇部隊 鋭鋒第二五二九〇部隊
11 11 11 8				8 8 8 8				4 1				
18 15 15 18				17 9 9 7				20 16				
海拉爾出発				海拉爾第一第二作業大隊に編入				陣地について武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		主力の状況		軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において臨時第六〇一大隊を基幹として編成完結 爾後同地付近の警備 機関銃隊田代見習士官以下混成の一ヶ小隊、興安嶺の陣地構築のため派遣 日「ソ」開戦 機関銃隊田代見習士官以下混成の一ヶ小隊、興安嶺の陣地構築のため派遣 日「ソ」開戦 主力の状況 開戦にともない大隊長以下主力は海拉爾三地区陣地（砂山）を守備し「ソ」軍と戦闘を交えたが大なる損害はなかつた。 その間大沢見習士官以下十数名を満洲里方面の状況偵察に派遣し全員消息不明となつた。
海拉爾出発				海拉爾第一第二作業大隊に編入				陣地について武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		主力の状況		
海拉爾出発				海拉爾第一第二作業大隊に編入				陣地について武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		主力の状況		
										摘要		

	自	至	自	至
	8	8	11	11
	16	9	25	18
<p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>興安嶺派遣隊の行動</p> <p>日「ソ」開戦にともない陣地の補強に従事中停戦となる。</p> <p>ただし日代見習士官以下約五〇名は伊列克得北方中村山において「ソ」軍と激戦を交え、その約半数が戦死又は生死不明となり脱出者は博克図北方山中を迂廻して齊々哈爾に向う途中ほとんどの者が戦死した。</p> <p>博克図第二作業大隊に編入</p> <p>博克図出発</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>大尉 国生 岩 男</p>				

2152

至 自		昭 20		年 月 日		独立混成才八〇旅団挺進大隊略歴	
8	8 8	8	7 7	7	7		通称号 鋭鋒第二〇七一四部隊
18	18 9	1	30 10	略	歴		
この間各陣地で激烈な戦闘を交えた。 特に第二中隊主力は一〇二号陣地で又第一中隊の主力は一〇二号陣地で甚大な損害をうけた。 一地区、二地区、三地区の部隊は各陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠		配備区分 主力は海拉爾二地区（河南台）一部は海拉爾各地区の陣地に配備して陣地構築に任じた。		軍令陸甲第一〇六号により編成下令 興安北省海拉爾において独立混成第八〇旅団隷下各隊からの抽出人員をもつて編成完結		摘要	
同 一ヶ小隊		主力（第一、第三中隊各主力、第二中隊、行李）		二地区（河南台） 一地区（安保山） 四地区（東山） 三地区（砂山） 同 一ヶ小隊			

至	自	至	自	至	自
8	8	11	11	11	11
11	10	25	18	18	15
<p>海拉爾支廠内に収容</p> <p>海拉爾第一第三作業大隊に編入</p> <p>海拉爾出發</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p> <p>四地区、鮪岡付近の部隊は陣地を撤退し博克図に向かつたが途中「ソ」軍の攻撃を受けて四散し統制ある武装解除等は受けず、博克図、齊々哈爾等の作業大隊に編入されて入「ソ」した。</p> <p>隊長</p> <p>大尉 米田三郎</p>					

昭 20		年	月	日	略	歴	摘 要																		
至	自																								
11	11							11	11	11	8	8	8	8	5	4	1	25	18	18	15	15	13	17	9
<p>軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において臨時混成六〇〇旅団砲兵隊および野砲兵第一一九連隊 からの抽出人員をもつて編成完結 主力は海拉爾に駐屯して陣地構築および初年兵教育に従事 この間興安嶺の陣地構築援助のため数次に亘り少数人員を派遣し、その総員は 約一二〇名である。 主力の状況 日「ソ」開戦とともに海拉爾三地区陣地（砂山）に配備し三河、滿洲里方面お よび「ノモンハン」方面から進攻して来た。「ソ」軍と激戦を交えた。 陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠に收容 海拉爾第一二作業大隊に編入 海拉爾出發 滿洲里經由入「ソ」</p>																									

独立混成才八〇旅団砲兵隊略歴

通称号 満第七三七部隊
鋭鋒第二五二九一部隊

		至 自		至 自		至 自					
		9	9	9	10	9	10	9	10	9	8
		29	21	21	下旬	28	17	28	15	11	9
		隊 長		大尉 松岡 栄次郎		滿洲里經由入「ソ」		齊々哈爾出發		一部は齊々哈爾第七作業大隊に編入	
						滿洲里經由入「ソ」		博克図出發		博克図第三第六作業大隊に編入	
										興安嶺派遣隊の行動 日「ソ」開戦後も陣地の補強に従事中停戦となる。	

2156

昭										年	月	日	略	歴	摘	要
至 自		至 自		至 自		至 自		至 自								
11	11	11	11	11	8	8	8	7	4							
25	18	18	15	15	18	17	9	上旬	20							
<p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>海拉爾出発</p> <p>海拉爾第一第二作業大隊に編入</p> <p>海拉爾二地区陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容</p> <p>海拉爾二地区陣地（河南台）において「ソ」軍と激戦を交え多数の戦死者をだした</p> <p>主力の状況</p> <p>竹平伍長以下約六〇名第一一九師団陣地構築作業援助のため興安嶺に派遣</p> <p>爾後海拉爾二地区陣地（河南台）、哈南鮪岡陣地の構築作業</p> <p>出人員をもつて編成完結</p> <p>興安北省海拉爾において臨時混成六〇〇旅団および工兵第一一九連隊からの抽</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p>										<p>通称号</p> <p>滿第一九七部隊</p> <p>銳鋒第二五二九二部隊</p>		<p>独立混成才八〇旅団工兵隊略歴</p>				

自 至						
10	10	8	8	8	8	8
19	9	20	18	16	16	9
<p>興安嶺派遣隊の行動</p> <p>日「ソ」開戦後も引続き陣地の補強作業中停戦</p> <p>博克図に集結</p> <p>富拉爾に着と同時に武装解除</p> <p>齊々ハ爾に集結</p> <p>齊々ハ爾作業第一大隊に編入</p> <p>齊々ハ爾出發入「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>少佐 南 一 二</p>						

昭 20		年		略		略	
至	自	至	自	至	自	至	自
11	11	11	11	8	8	4	1
25	18	18	15	15	18	20	16
隊 長 少佐 板垣恭二		滿洲里經由入「ソ」		海拉爾出発		海拉爾第一第二作業大隊に編入	
		停戦により各陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		一地区(安保山) 三地区(砂山) 四地区(東山) 五地区(伊東台) に派遣し通信連絡に従事		爾後同地にありて通信教育に従事	
				日「ソ」開戦に伴ない主力は海拉爾二地区陣地(河南台)に入り若干名あて、		興安北省海拉爾において第一一九師団隷下各部隊よりの抽出人員をもつて編成	
				完結		軍令陸甲第九号により編成下令	
						略	
						歴	
						摘要	

独立混成才八〇旅団通信隊略歴

通称号

満第二二六部隊
鋭鋒第二五二九三部隊

2159

		至 自				昭 20	年	独立歩兵才八〇旅団輜重隊略歴	
11	8	8	8	8	6	4	1		月
15	18	17	10	9	初	20	16		日
		主力の状況						通称号 満第七四四部隊 鋭鋒第二五二九四部隊	
日「ソ」開戦に伴ない海拉爾二地区陣地（河南台）に入り「ソ」軍と交戦し甚大な損害を受けた。 満洲里の独立歩兵第五八六大隊に派遣の一ヶ小隊中一部は所属隊に復讐したがその他のものは生死不明 主力は二地区陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容 海拉爾第一第二作業大隊に編入		軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において輜重兵第一一九連隊からの抽出人員をもつて編成完結 爾後海拉爾付近にて資材糧秣の輸送に従事 第二中隊の一ヶ小隊を独立歩兵第五八六大隊に配属し満洲里に派遣 第一中隊長吉野中尉を長とする混成中隊（約二三〇名）を第一一九師団の陣地構築作業援助のため興安嶺に派遣 部隊主力は海拉爾近郊遊撃拠点陣地構築作業実施		略		歴			摘要

至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自			
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	11	11	11	11
21	18	16	2	15	1	20	16	16	9	25	18	18	15
<p>海拉爾出發</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p> <p>興安派遺隊の行動</p> <p>日「ソ」開戦後も引続き陣地の補強及所在各部隊への軍需品の輸送業務に従事 中停戦</p> <p>博克図に集結、武装解除</p> <p>齊々哈爾着</p> <p>齊々哈爾第一第九作業大隊に編入</p> <p>齊々哈爾出發</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>少佐 岡田 稔</p>													

2161

										昭 20	年	独立混成才一三五旅団司令部略歴	
至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		7	月		
9 9		9 9		9 9		8 8		8 8		7	日		
30 20		24 17		24 16		24 21		20 9		31	10	略	通称号 不朽第三七五六二部隊
隊長 少将 浜田重之助		孫呉出発 黒河經由入「ソ」		孫呉第一八第一九作業大隊に編入		孫呉に集結 黒河省、徒溝子において武装解除後徒歩行軍にて孫呉に向い出発		日「ソ」開戦にともない環軍陣地において「ソ」軍と交戦		軍令陸甲第一〇六号により編成下令 黒河省環軍陣地において第六国境守備隊よりの人員を基幹として編成完結		略	
												摘要	

2162

至 自		昭	年	独立歩兵才七九五大隊略歴 通称号 不朽第三七五六三部隊
8. 8	8 8	7 7	月	
20 10	10 9	31 10	日	
この間環瑛陣地で戦闘		略		歴
歩兵砲隊および機関銃中隊の主力は第二中隊の戦闘に協力した。		軍令陸甲第一〇六号により編成下令 黒河省環瑛において第六国境守備隊よりの人員を基幹として編成完結 爾後環瑛二站陣地において陣地構築 日「ソ」開戦にともない大隊は二站出発 環瑛陣地に到着配備につく。 陣地内の配備状況 第一中隊 東山陣地 第二中隊 南丘陣地 第三中隊 三角台陣地 第四中隊 北山陣地		
		摘		要

2163

至 自			至 自			至 自		
9	9		9	9		8	8	8
20	17		17	15		23	22	21
大尉 山田 鏡			隊長			孫具第一〇、第一一、第一九作業大隊編入		
			孫具出発			孫具に集結		
			黒河經由入「ソ」			徒溝子出発		
						黒河省徒溝子において武装解除		

至 自		至 自		至 自		至 自		昭 20		年 月 日	略 歴	摘要	
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8				7
30	10	25	7	24	5	24	21	21	9	31	10		
第三中隊は開戦時徒溝子七曲陣地に配備		黒河經由入「ソ」		孫呉出発		孫呉第一八第一九作業大隊に編入		黒河省孫呉に集結		二站陣地において武装解除後同地出発		陣地内で戦闘したが損害は軽微であつた。	
										軍令陸甲第一〇六号により編成下令		黒河省瓊瑁において第六国境守備隊よりの人員を基幹として編成完結	
												大隊(三中隊を欠く)は二站陣地において陣地構築中開戦	

独立歩兵才七九六大隊略歴

通称号 不朽第三七五六四部隊

自	至	
8	8	この間同陣地において激戦を交え多数の損害を出した。
12	21	徒溝子において武装解除
17	28	徒溝子出発
9	9	孫呉に到着、一部は北安省北安に向つて南下中満軍の襲撃を受け四散した。
13	13	孫呉第九作業大隊に編入
15	15	孫呉出発
17	17	黒河經由入「ソ」

隊長

大尉 松 沢 喜 代 治

自 至			昭 略 歴		通称号 不朽第三七五五六五部隊	独立混成才七九七大隊略歴
年	月	日	略	歴		
8	8	8	この間「ソ」軍歩兵部隊と交戦若干の損害あり。			
8	8	20	二站において武装解除 爾後孫呉に集結、朝水の部隊と合流			
8	8	23	二站陣地の状況			
8	8	21	黒河省徒溝子において武装解除			
8	8	9	日「ソ」開戦にともない朝水陣地は「ソ」軍の攻撃を受けたが、人員に損害はなかつた。			
7	7	31	編成完結 爾後主力（第四中隊を除く）は二站陣地および朝水陣地において陣地構築 朝水陣地の状況			
7	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令			

摘要

2167

至	自	至	自	至	自
9	9	9	9	9	9
30	16	24	15	24	14
<p>孫呉第六第一八第一九作業大隊に編入</p> <p>孫呉出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p>一部第四中隊は日「ソ」開戦にともない環珣陣地にて「ソ」軍と交戦、八月二十二日環珣陣地において武装解除爾後孫呉に集結。主力と合流</p> <p>隊長</p> <p>大尉 千葉 徳明</p>					

2168

		年 月 日		略 歴		摘 要	
				独立混成才七九八大隊略歴			
				通称号 不朽第三七五五六部隊			
8	21	8	21	7	10	7	31
同日において武装解除		北安省嫩江に到着、各中隊合流		軍令陸甲第一〇六号により編成下令		黒河省瑗瑯において第七国境守備隊の第四第五中隊の人員を基幹として編成完結	
主力の行動		日「ソ」開戦		爾後次のとおり各中隊を配備		機関銃中隊 歩兵砲小隊	
				本 部		山 神 府	
				第 二 中 隊		達 音 山	
				第 三 中 隊		法 別 拉	
				第 四 中 隊		神 武 屯	

		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自	
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8
19	16	15	20	17	16	22	20	17	15	11	11
黒河経由入「ソ」 隊長少佐 和田勝		孫呉出発		黒河経由入「ソ」 一部は孫呉第一作業大隊に編入		孫呉出発		黒河経由入「ソ」 主力は孫呉第一九作業大隊に編入		二站において武装解除後孫呉に移動。 二站において戦闘。両戦闘において多数の損害をうけた。	
								環玕陣地において戦闘		神武屯を出発、同日環玕着	
								第四中隊の行動		黒河経由入「ソ」	
										嫩江出発	
										嫩江第三第三作業大隊に編入	

至 自		至 自		昭 20		年 月 日	独立混成才一三五旅団挺進大隊略歴 通称号 不朽第三七五六七部隊	
9	9	8	8	7	7			略
24	13	23	21	31	10			
孫呉第一〇第一八第一九作業大隊に編入		黒河省徒溝子において武装解除		黒河省瑗瑯において第六国境守備隊および第一二三師団からの抽出人員をもつて編成完結		主力の行動		
		第二中隊は瑗瑯西山、船山、蹄鉄山各陣地に配備。		日「ソ」開戦に伴ない本部、第一中隊は瑗瑯中山陣地に配備				
		各陣地においてしばしば奇襲戦闘を敢行し多数の生死不明者を出した						
						摘要		

2171

	至	自	至	自
	9	9	9	9
	30	17	24	15
	黒河經由入「ソ」		孫呉出発	
	第三隊の行動			
	8	9	8	9
	日「ソ」開戦に伴ない主力は黒河省二站陣地、一部は朝水陣地に配備戦闘に参加。			
	8	21	8	21
	二站において武装解除			
	8	23	8	23
	孫呉に集結主力と合流し同行動			
	8	28	8	28
	堀部少尉以下一二名は作業大隊を編成せず二站より直接入「ソ」			
隊長				
中尉 亀田 弘				

至 自		至 自		昭 20		年 月 日	略 歴	独 立 混 成 才 一 三 五 旅 団 砲 兵 隊 略 歴		
8	3	8	8	8	8				7	7
24	23	22	21	19	11				9	31
黒河省孫呉に集結		本部、第二中隊は二站陣地において武装解除		第一、第三中隊は徒溝子において武装解除		軍令陸甲第一〇六号により編成下令 黒河省瑗瑀において第六国境守備隊砲兵隊を基幹として編成完結 爾後同地付近の陣地構築 日「ソ」開戦にともない、次の如く配備につく 本部、第二中隊 二站陣地 第一 中 隊 瑗瑀陣地 第三 中 隊 朝水陣地		戦闘せず。 瑗瑀陣地および二站陣地は「ソ」軍の攻撃を受け損害を受けたが、朝水陣地は		
								摘 要		

	至	自	至	自	至	自
	9	9	9	9	9	9
	30	16	24	15	24	14
			黒河絳山入「ソ」			
			隊長	孫呉第九、第一八、第一九作業大隊に編入		
	少佐			孫呉出発		
	長					
	嶋					
	博					

至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		昭		年 月 日	略 歴	独立混成才一三五旅団工兵隊略歴 通称号 不朽第三七五六九部隊					
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	7				7				
30	19	24	16	24	15	23	22	21	19	11	9				31	10			
黒河經由入「ソ」		孫呉出發		孫呉、第一、第一八、第一九作業大隊に編入		黒河省孫呉に集結		一部は二站において武装解除		主力は黒河省徒溝子において武装解除		両陣地において戦闘		日「ソ」開戦に伴ない主力は瑗瑁東山陣地、一部は二站陣地に配備		軍令陸甲第一〇六号により編成下令		黒河省瑗瑁において第五第六国境守備隊工兵隊の人員を基幹として編成完結	
												摘要							

至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		昭	年	独立混成才一三五旅団通信隊略歴									
9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	7		月								
24	15	24	14	23	21	22	21	19	11	9	31		日								
孫呉出発		孫呉第九第一八第一九作業大隊に編入		各陣地より黒河省孫呉に集結		朝水陣地の者は徒溝子において武装解除		二站陣地に配備されたものは二站において武装解除		主力は徒溝子において武装解除		各陣地において戦闘		に配備		日「ソ」開戦に伴ない主力は瑗琿北山陣地に配備。一部は二站陣地及朝水陣地に配備		黒河省瑗琿において第六国境守備隊通信隊の人員を基幹として編成完結		軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
											略	歴	摘	要							

734の2

	至 自
	9 9
	30 16
	黒河經由入「ソ」
	隊長
	中尉 小松 義次

2178

至 自		至 自		至 自		昭	年 月 日	略 歴	独立混成才一三五旅団輜重隊略歴 通称号 不朽第三七五七一部隊												
9	9	9	9	8	8	8				7	7										
24	16	24	15	23	22	19				11	9	31	10								
孫呉出発		孫呉第一、第一八第一九作業大隊に編入		黒河省徒溝子において武装解除		黒河省孫呉に集結		陣地の守備に任じた。		残余の人員を以つて環陣陣地二站陣地間、或は陣地内の輸送に任ずる他、南山		集結		日「ソ」開戦時二站陣地の構築中であつた主力約二五〇名は直ちに環陣陣地に		重隊の各一部をもつて編成完結		黒河省環陣地において第六国境守備隊砲兵隊及、第一二三師団砲兵隊ならびに輜		軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
										摘 要											

785の2

	自
	至
	9 9
	30 17
	黒河經由入「ソ」
	隊長
	大尉
	上野武夫

2180

						昭	昭	年	月	日	略	歴	摘	要
						20	19							
9	8	8	8	6	6	10	10							
中旬	17	15	9	7	7	20	11							
<p>追撃砲才一七大隊 略歴</p> <p>通称号 満第六八一部隊 光第二六八一七部隊 光第三〇七一一七部隊</p> <p>軍令陸甲第一三五号により編成下令 興安北省海拉爾において第八国境守備隊の第一、第二、第三、第四及び第五地区隊等の差出し人員をもつて編成完結 爾後同地付近の警備 部隊主力は興安嶺に陣地構築のため移動し、一部は兵営警備および自活作業のため海拉爾に残留した。 興安嶺主力部隊の行動 主力部隊は興安嶺において搜索第一一九連隊長の指揮下に入る。 日「ソ」開戦に伴ない戦闘配備についたが交戦せず。 停戦 主力は博克図において武装解除 大部は博克図第一作業大隊、一部は第五作業大隊に編入</p>														

2181

			至	自	至	自	至	自
			8	8	10	9	10	9
			15	15	18		17	9
			11	11	8		11	21
			15	15	18		9	21
<p>博克図出発</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p> <p>海拉爾殘留隊の行動</p> <p>日「ソ」開戦と共に独立混成第八〇旅団長の指揮をうけて左の陣地守備につき激戦を交え多数の戦死者をだした。</p> <p>1. 第一〇一陣地 第三中隊 約六〇名 段列要員 約 五名</p> <p>2. 第一〇二陣地 本部 約四〇名 第一中隊 約六〇名 段列要員 約三〇名</p> <p>3. 第一〇五陣地 第三中隊 約六〇名 段列要員 約 五名</p> <p>各陣地において武装解除後海拉爾兵器廠に収容された。</p> <p>海拉爾第二作業大隊に編入</p> <p>海拉爾出発。同日滿洲里經由入「ソ」</p>			<p>隊長</p> <p>少佐 林田健一</p>					

昭												年	月	日	略	歴	摘	要
8	8	7	6	5	4	4	4	3	3	3	2							
18	10	20	10	14	28	7	1	29	22	10	15							
長沙出發	湖南省長沙着	新市出發	湖南省新市着	大冶出發	湖北省大冶着	蕪湖出發	安徽省蕪湖着	同日支那派遣軍總司令官の隷下に入る。	滿支国境山海関通過	東寧県大城子出發	間島省東寧(大城子)野砲兵第二四連隊において編成完結	軍令陸甲第一一号により編成下令						

独立野砲兵才一〇大隊略歴
通称号 光第三一五〇部隊

昭															
20															
8	6	6	6	5	5	4	3		3	2	11	11	11	9	8
10	20	中旬	13	21	13	24	30		29	22	23	22	5	1	28
<p>湖南省衡陽着</p> <p>衡陽出發</p> <p>広西省桂林着。同日より同地付近の戦闘参加</p> <p>桂林出發</p> <p>広西省会仙着</p> <p>会仙出發</p> <p>湖南省長沙着</p> <p>長沙に林中尉以下九四名を残置</p> <p>長沙出發</p> <p>湖北省漢口着</p> <p>漢口出發</p> <p>江蘇省上海着。同地において陣地構築</p> <p>上海出發</p> <p>第四軍の戦闘序列に入る</p> <p>長沙に残置した九四名は第一二軍司令部に転属し同部隊と共に帰還した。</p> <p>竜江省齊々哈爾着</p> <p>日「ソ」開戦と同時に哈爾濱警備のため齊々哈爾出發</p>															

									昭 20			
	11	10	9	9	9	8	8	8	8			
	25	15	15	13	8	28	24	17	15			
少佐 田中久二 隊長	綏芬河經由入「ソ」	海林出発	将校および下士官の大部は海林作業大隊に編入	綏芬河經由入「ソ」	拉古出発	更に拉古第二四作業大隊に編入	兵の主力は、海林第一〇二作業大隊に編入。	爾後部隊の建制をとき将校、下士官、兵に区分収容	牡丹江省海林着	哈爾濱出発	哈爾濱香坊において武装解除	哈爾濱において停戦

昭 17												年	才三四野戦道路隊略歴 通称号 光四八四〇部隊
1 1 1 12 12 12 8 8 8 8 8 8 7												月	
18 17 15 17 15 12 25 22 20 16 13 3 16												日	
特臨編一六令付第一一四号により編成下令 水戸東部六四部隊において編成完結 渡満のため水戸出発 宇品港出帆 大連港上陸 関東州界通過 東安省平陽鎮着 「マレー」作戦参加のため平陽鎮出発 関東州界通過 大連港出帆 泰国「シンゴラ」上陸 「シンゴラ」出発 泰国「マレー」国境通過												略	歴
												摘	
												要	

2136

昭												
20												
9	9	8	8	8	8	6	4	4	8	8	8	2
19	10	25	23	20	15		10	8	31	28	25	14
<p>「シンガポール」着</p> <p>満洲黒河省移駐のため「シンガポール」出発</p> <p>大連港上陸</p> <p>大連港出発。同日関東州界通過</p> <p>黒河省黒河着。爾後同地付近の警備並びに道路構築</p> <p>黒河出発</p> <p>吉林省九站着</p> <p>第一、第二中隊は豊満に移動陣地構築</p> <p>本部主力豊満に移駐</p> <p>第三中隊のみ孫呉に移動。日「ソ」開戦に伴い孫呉第一建設隊長の指揮をうけ共に行動</p> <p>停戦</p> <p>吉林省豊満発。同日吉林着。同地において武装解除</p> <p>吉林出発</p> <p>敦化着</p> <p>敦化第二三三作業大隊に編入</p> <p>敦化出発。満洲里經由入「ソ」</p>												
<p>隊長 少佐 与田美之助</p>												

2137

昭 20	至 6	自 昭 19	至 10	自 昭 18	昭 16	年	略	歴	摘要			
6	6	1	10	3	7	6				6	6	6
14	30	10	10	5	7	29				28	24	23
							中旬	1				
<p>静岡において編成完結</p> <p>静岡出發</p> <p>釜山出發</p> <p>鮮満国境通過</p> <p>北安省境通過</p> <p>黒河省孫吳着</p> <p>爾後同地付近の建築業務に従事</p> <p>特臨編一六令付第一〇二号により編成改正</p> <p>大成金廠貨物廠施設工事に従事</p> <p>第一三部隊野戦築城隊に分遣。築城工事に従事</p> <p>主力孫吳出發。約一ヶ小隊を孫吳に残置す。同日竜江省齊々哈爾着</p>												

建築勳務才四六中隊略歴

通称号 光第五七二九部隊

略

歴

摘

要

至 自 至 自				至 自 至 自							
9	9	9	9	10	9	9	9	8	8	8	8
28	4	27	3	30	12	7	1	17	15	12	10
<p>黒河經由入「ソ」</p> <p>孫呉出発</p> <p>隊 長</p> <p>中尉 江川 瑛</p>				<p>編入</p> <p>一部一ヶ小隊は八月十五日北孫呉において武装解除。孫呉第二、第三作業大隊に</p> <p>綏芬河經由入「ソ」</p> <p>主力は海林第一〇三、第一二五、第一二八、作業大隊に編入</p>				<p>哈爾濱へ移動のため齊々哈爾出発</p> <p>哈爾濱着</p> <p>同地において停戦</p> <p>哈爾濱平房において武装解除</p>			